

提出 順番	No. 9	平成 24 年 12 月 3 日 午前・(午後) 1 時 45 分受領
----------	----------	--

平成 24 年 12 月 3 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

幕別町議会議員 岡本真利子 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
高齢者支援について	<p>日本社会が抱えるさまざまな問題として「少子高齢化」が叫ばれており、日本は今や高齢社会のはるか先をゆく超高齢社会に突入しています。現在日本は高齢者が平成 24 年 9 月の総務省統計では 3074 万人に達し初めて 3000 万人を突破しました。4 人で 1 人の高齢者を支えています。総人口に占める割合も 24.1%で「団塊の世代」が高齢者入りをはじめ、急速な伸びを示しています。25 年後には国民全体の約 3 分の 1 が高齢者になると予測されるほど世界一の高齢大国です。</p> <p>本町としても平成 26 年の 65 歳以上の人口は 7707 人、高齢化率 28.1%と推計しています。</p> <p>このように今後の高齢化の進展において高齢者の方々が置かれている状況の変化に対応した適切な支援が必要と考えます。そこで 2 点お伺いします。</p> <p>1 点目は市民後見人の育成についてであります。成年後見制度は認知症の高齢者や精神的障害により、判断能力が十分でない方が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをし、その方を支援してくれる人を付けてもらう制度です。この制度は平成 12 年よりスタートしましたが、この制度を知らない、また、後見人になる家族がいない、申し立ての費用や報酬の支払いなどの金銭的な問題もありました。そこで利用促進のための広報、普及活動と申し立て経費等の助成を行う成年後見制度利用支援事業が創設されています。成年後見制度を利用する人のニーズに対応するた</p>

めには、弁護士などの専門職や家族による後見人だけではなく、「市民後見人」の育成が急務とされますが本町としてどのような措置が取られているのか、市民後見人の育成を図るべきと考えますが見解をお伺いします。

2点目に緊急通報システム、ふれあいペンダント事業についてであります。

このシステムは、高齢者等の急病や事故等の緊急時に迅速に対応するために緊急ボタンを押すことで消防署に連絡が届くことになっているものであります。

高齢者が安心して生活できるためには高齢者本人及び、その家族にとって何かあった時に対応してくれる人がいないことへの不安があるため、いざという時に医療や介護が受けられるよう環境が整備されているという安心感を醸成する必要があります。そこで本町の設置状況についてお伺いします。

一人暮らしの高齢者が病気や災害時に迅速に緊急医療が受けられるように通院している医療機関や内服薬の内容、持病、緊急連絡先などを記入し救急隊が見やすい冷蔵庫で保管する「救急医療情報キット」について、本町としても高齢者の安全、安心の確保をめざすために導入をすべきと考えますが見解をお伺いします。